

平成 21 年 4 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520411

研究課題名（和文） オンラインによる教師教育者研修：
海外日本語教育実習担当者を対象として研究課題名（英文） Educating Teachers' Teacher via E-mail Network:
Focusing on Overseas Pre-service Training for Japanese Language
Teachers

研究代表者

横溝 紳一郎（YOKOMIZO SHINICHIRO）

佐賀大学・留学生センター・教授

研究者番号：60220563

研究成果の概要：

3年間の調査研究は、デザイン・運営の面で様々な修正を何度も繰り返しながら進められたが、最終的に、19年度の末に実施された「コミュニケーション・スキルを学ぶためのワークショップ」、そして20年度に実施されたオンライン支援とオフライン支援（台湾での教育実習）が、教師教育者研修に大きく貢献する可能性がある、という知見が得られる結果となった。このことは、オンラインによる教師教育者研修のあるべき姿の探求での、大きなワン・ステップであると考えられる。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,200,000	0	1,200,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	660,000	4,060,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：オンライン、研修、教師教育者、教育実習、メンタリング、教師の成長、コミュニケーション能力

1. 研究開始当初の背景

(1) 現職日本語教師（国内 24,353 人、海外 27,611 人）はこれまで、東京や大阪などの大都市に在住する者を除いて、研修を受ける機会に恵まれてこなかった。現職者対象の研修の多くが大都市を中心として開催されることが、その大きな理由である。開催された場合でも、単発・散発的なものは別として数ヶ月にわたる、定期的な研修コースはなかなか実現できなかった。しかしながら、最近の IT インフラ整備の爆発的な進展によって、国内・海外の都市から離れた地域においても日

本語教師がコンピュータを持ち、インターネットにアクセスできる環境が整ってきた。2002 年より始まった、日本語教育学会による「オンライン現職教師研修プログラム」はその先駆けであり、その試みは多くの教育的示唆を残してきた。

(2) 本研究の代表者は、コーディネーターとして同プログラムのデザイン・運営に関わってきた自身の体験を踏まえ、教師教育を考える上で「急務の課題（横溝・當作 2003）」とされている教師教育者教育に関して、研究

を継続してきた（平成 16 年～17 年度科学研究費補助金[萌芽研究]「オンラインによる日本語教師教育者研修に関する総合的研究」[課題番号 16652038]）。同研究では、オンラインを通じての、教師育成のノウハウの獲得、特にメンタリング技術向上をめざし、日本国内の 3 名の研究協力者の教師教育者としての変容を調査した。結果、研究協力者に「教師教育者の役割の再考」「教師教育者としての自分自身の見つめ直し」「教師教育者としてのあるべき姿のイメージと、その実現に近づくための方略の認識」などの変容が認められた。このような形で、同研究は、当初の目的をかなりの程度達成したと考えられるのであるが、3 名を対象にした小規模な事例研究にとどまっているのも事実であり、「教師教育の場でどのような E-learning が実現可能なのか」という大きな研究課題を明らかにするためには、更なる研究が必要だという結論に至った。

2. 研究の目的

(1) これらの背景の下、本研究は、「オンラインによる日本語教師教育者研修に関する総合的研究」のデザイン・運営方法を教育環境が異なっている者に適用し、各自の変容を調査することを目的とした。新たな研究協力者は、海外日本語教育実習担当者 2 名であった。海外実習という形で、学部生・大学院生を海外の教育機関に送り出す国内の大学・大学院が、現在、増加しつつある。それに伴い、教育経験のあまりない現地の日本語教師がその担当者となるケースも増えてきている。オンラインによる支援を通して、2 名の研究協力者が教育実習という現場でどのように変容していくのか、そしてその変容と「オンラインによる日本語教師教育者研修に関する総合的研究」での研究協力者の変容との共通点・相違点は何かを明らかにしていくことをめざし、本研究は始められた。

3. 研究の方法

(1) 本研究での海外実習担当者 2 名に対する支援は、研究代表者に加えて、(前回の科研メンバーである) オンライン研修体験者 3 名からも与えられる形式を採用した。オンライン支援のために、2 つのメーリング・リストを開設した。一つは、研究代表者がオンライン研修体験者の支援を行うためのもので、教師教育者 (teacher's teacher) の頭文字を取って「TT メーリング・リスト」と名づけられた。もう一つは、研究代表者とオンライン研修体験者が一緒になって海外実習体験者の支援を行うためのもので、世界の教師 (world's teacher) の頭文字を取って「WT メーリング・リスト」と名づけられた。

(2) 3 年間の研究は、以下のような形で進められた。

[平成 18 (2006) 年度]

- 4月下旬 新たな研究協力者(すなわち海外実習担当者2名)の決定
- 5月下旬 研究代表者とオンライン研修体験者3名が、「オンラインによる日本語教師教育者研修:メンタリングの可能性の探究」を、日本語教育学会春季大会(東京外国語大学)でパネル・セッションとして発表
- 6月上旬 オンライン研修体験者3名が、各自のアクション・リサーチを、日本語教育学会研究集会(鹿児島大学)でポスター発表として発表。研究代表者と海外実習担当者2名も同地に集合し、全員参加の第1回ミーティングを開催
- 7月中旬～下旬 参加者全員が、以下の質問に対する回答を ML に送り共有する。(ラポール形成のため)
- 「あなたの好きな季節は?その理由は?」
 - 「あなたの好きな色は?その理由は?」
 - 「あなたの好きな花は?その色は?その理由は?」
 - 「自然の中であなたの好きな場所は(例:海、山、川、湖等)?その理由は?」
 - 「あなたの趣味または好きなことは?その理由は?」
- 8月上旬～8月中旬 自己紹介+作文の共有(ラポール形成のため)
- (1)「今、どのように日本語教育・日本語教師教育にかかわっているか」
- 「どんなことが気になっているか(特に『教師教育』に関連して)」
 - 「どんなふうにこの研修を活用したいと思っているか」
- について、参加者全員が自己紹介。
- (2)他の人の自己紹介と作文を読んで、コメントを交換する。
- 8月中旬～8月下旬 参加者全員が各自、「自分が担当しているクラス」の紹介をする(シラバスなどを添付で送り、意見・情報交換)
- 9月上旬～9月中旬 「私の日本語教育哲学」を参加者全員が、各自 ML に配信する。
- 9月中旬～10月 オンライン研修体験者2名がそれぞれ、海外実習担当者2名の在住地(大韓民国、トルコ)に赴き、インタビュー調査を実施。日本語教師教育に関してそれぞれが抱えている問題点の明確化
- 10月～2月 メーリング・リストによる支援の実施
- テーマを設定し、メーリング・リスト上での意見・情報交換を実施。テーマは以下の

通りであった。

- a. 教師教育のあるべき姿
- b. メンタリング
- c. 教師の実践能力
- d. 教育実習

- 3月 海外実習担当者2名が、それぞれの現場で、教育実習生の指導に従事する。研究代表者とオンライン研修体験者3名は、メーリング・リスト上の意見・情報交換による支援を提供

[平成 19 (2007) 年度]

- 4月上旬～下旬 18年度の日本語教育実習の振り返り。

- 5月上旬～9月中旬 参加者全員が、各自の実践の場で、「メンターとしてのあるべき姿」を理論面・実践面から探究し、MLに送り共有する。ML上のディスカッションを活性化するために、研究代表者は「メンター日記(代表者がメンターとしての自身の奮闘努力を日記形式で記したものの)」を定期的に配信する。

- 9月中旬～9月下旬 海外実習担当者2名の帰国が決定。それに伴う研修デザインの修正。

- 10月上旬～1月下旬 それまでの学び・気づきを以下の形でまとめ、レポートとして提出。

海外実習担当者：どんな援助がほしかったか、どんな援助が役に立ったか/立たなかったか、等

オンライン研修体験者：どんな援助がほしかったらうと思っていたか、どんな援助を行ったか/行わなかったか、それはなぜか、等

- 2月上旬 研究代表者とオンライン研修体験者3名の意見・情報交換

- 2月下旬 海外実習担当者2名対象の、インタビュー調査及びコミュニケーション能力を向上させるワークショップの実施

- 3月 研究代表者が、上掲のインタビュー・レポート等で得られたデータを総合的に分析する

[平成 20 (2008) 年度]

- 4月上旬～5月中旬 19年度の調査結果を、研究代表者と5名の研究協力者が共有する

- 5月下旬～9月中旬 参加者全員(研究代表者1名、オンライン研修体験者3名、海外実習担当者2名)が、「(メンターとしての)具体的なコミュニケーションのあり方」のモデルを再度共有し、ML上で各自の実践報告を行う

- 9月下旬 台湾高雄市にある文藻外語学院で研究代表者が行う日本語教育実習に、オ

ンライン研修体験者2名と海外実習担当者2名が参加する。海外実習担当者は、(1)研究代表者の実習生に対する指導・アドバイスを参与観察し、(2)自らの指導・アドバイスの方法との比較対照により、その改善方法を考察し、(3)実習生に対する指導・アドバイスを支援者として行い、(4)その成果について内省する。オンライン研修体験者の2名は、海外実習担当者の変容を観察し、自らの指導・アドバイスの具体的改善方法を考察する(1名のオンライン研修体験者は不参加)

- 10月上旬～12月下旬 3年間の学びについて、オンライン研修体験者3名及び海外実習担当者2名が、レポートにまとめる。

[海外実習担当者のデータ]

- ・2度のインタビューで自分が語った内容
- ・これまでに自分が配信したメール
- ・2007年2月に提出した中間まとめレポート
- ・高雄教育実習レポート

[オンライン研修体験者のデータ]

- ・「オンライン教師教育研修」の科研成果報告書に執筆した内容
- ・これまでに自分が配信したメール
- ・2007年2月に提出した中間まとめレポート
- ・高雄教育実習レポート

- 1月上旬～2月下旬 研究成果報告書の作成

- 3月上旬 研究成果報告書の刊行

4. 研究成果

(1)3年間の調査研究は、デザイン・運営の面で様々な修正を何度も繰り返しながら進められたが、最終的に、19年度の末に実施された「コミュニケーション・スキルを学ぶためのワークショップ」、そして20年度に実施されたオンライン支援とオフライン支援(台湾での教育実習)が、教師教育者研修に大きく貢献する可能性がある、という知見が得られる結果となった。このことは、オンラインによる教師教育者研修のあるべき姿の探求での、大きなワン・ステップであると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

横溝紳一郎、「校内研修としてのアクション・リサーチの可能性」、『アクション・リ

サーチ研究』第2号、8-17、2008、査読なし

〔学会発表〕(計 2件)

横溝 紳一郎、「Exploratory Action Research」第1回オックスフォード神戸英語教育セミナー、2007年3月、神戸インスティテュート

横溝紳一郎、岡部悦子、高橋美奈子、山田智久、「オンラインによる日本語教師教育者研修：メンタリングの可能性の探究」、日本語教育学会春季大会、2006年5月、東京外国語大学

〔図書〕(計 4件)

玉井健・吉田達弘・横溝紳一郎・今井裕之・柳瀬陽介、ひつじ書房、『ダイナミックな英語教育』、印刷中

西原鈴子・横溝紳一郎他、朝倉書店、『言語と社会・教育』、印刷中

西原鈴子・西郡仁朗・横溝紳一郎他、ひつじ書房、『講座社会言語科学4：教育・学習』、2008年、182-214.

春原憲一郎・横溝紳一郎共編著、凡人社、『日本語教師の成長と自己研修：新たな教師研修ストラテジーの可能性をめざして』、2006年、285-325.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

取得状況(計 0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1)研究代表者

横溝 紳一郎 (YOKOMIZO SHINICHIRO)

佐賀大学・留学生センター・教授

研究者番号：60220563

(2)研究分担者

(3)連携研究者